地元の活性化につながった農村環境保全活動

中間農業地域

21.早川（はやかわ）の自然を楽しむ会（神奈川県小田原市）

○本地区は、豊臣秀吉が小田原城攻めで築造した一夜城に隣接し、この歴史的資源を活用した都市住民との交流活動を通じて地域の活性化を目指しており、毎年2回の遊休農地を活用した花摘み体験のイベントを中心に農道沿いの植栽（ツツジ、サツキ、桜など）といった四季折々の花をテーマに農村環境の改善に取り組む。

○また、県内有数のみかんの産地として知られる本地区の農業を次世代に残していくため、柑橘類の生産基盤となる農道の管理を中心とした農地維持や資源向上（共同活動）を実施する。

【地区概要】
・取組面積　40.66ha
（田　0ha、畑　40.66ha）
・資源量　農道　17.5km

・主な構成員
農業者、非農業者（土地改良区等）

農地維持支払 | 資源向上支払（共同） | 資源向上支払（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

○主要作物：通年栽培
早生、普通温州（藤中、青島、大津）、晩柑類（湘南ゴールド、デコポン、夏みかん）及び花卉、植木の栽培

○柑橘の生産が年間を通して盛んな地域であるが、海辺の集落から急傾斜の続く樹園地へ通作道が何本もあり、農道役員を置き、集落の共同作業で草刈りや豪雨後の点検などの維持活動を行っていた。

○事業導入以前は、維持管理費用は、すべて農家の自費で行っていた。

取組内容

農地を利用した景観形成活動

農道の簡易補修

○農道や樹園地法面の点検を実施し、草刈りや清掃などの適正管理を実施。

○異常気象時の見回りを実施し、農地や農道の応急措置などを実施。

○都市住民との交流会を通して、地域の活性化の推進と農業農村の有する多面的機能の理解促進活動を実施。

○遊休農地を活用した花摘み体験イベント

効果、課題、今後の展開

○平成19年度から本事業に取り組んでおり、活動の進展にあわせ取組面積を拡充。

遊休農地の発生抑制面積が、6割増加

○土地改良区、JA青壮年部、地元で組織する早川活性化推進協議会と連携

○遊休農地を活用した農村環境保全活動にて、コスモスやポピーの摘み取り等を実施し、都市住民との交流を図り、地元の活性化を推進。

遊休農地を活用した観光・都市農村交流